

令和6年度 第1回川崎市社会教育委員会・中原市民館専門部会 会議摘録

- 【日 時】 令和6年7月26日（金）14時30分から16時まで
【会 場】 中原市民館1階グループ室
【出席者】 川崎委員、日吉委員、赤野委員、五十嵐委員、木村委員、山田委員、山本委員
【欠席者】 安藤委員
【事務局】 福田館長、船津課長補佐、大久保係長、中島職員
【傍聴者】 5人

専門部会の委員8人中7人が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

〈資料〉

- 資料1 中原市民館専門部会とは
資料2 令和6年度 中原市民館の管理運営について
資料3 令和6年度 中原市民館社会教育振興事業について
資料4 中原市民館指定管理者制度の導入について
資料5 川崎市社会教育委員会・中原市民館専門部会委員名簿
参考資料 令和5年度第4回中原市民館専門部会摘録
参考資料 令和6年度第2回中原市民館専門部会の開催候補日について（日程調整表）
参考資料 令和5（2023）年度教育文化会館・市民館活動報告書

- 1 開会
- 2 委嘱状伝達
出席委員7名に委嘱状を交付
- 3 館長あいさつ
福田館長から
- 4 専門部会委員紹介
各委員から氏名・所属団体の紹介
- 5 中原市民館職員紹介
廊下に待機していた職員も入室し紹介
- 6 資料確認
不足なし
- 7 専門部会についての概要説明
資料1に基づき説明
- 8 部会長・副部会長選出
部会長は川崎委員、副部会長は日吉委員で決定

9 部会長・副部会長あいさつ

10 議事

(1) 報告事項

ア 市民館の管理運営について

資料2について説明（船津課長補佐）

山本委員） 実習室にモデル着替え等に使用できるパーティションを設置した経緯をお聞きしたい。

船津課長補佐） 要望があったため、他の部署からパーティションを譲り受け、再利用することとしたもので、新品の購入はせずに配置をした。

山本委員） 更衣室を作らないのか。ホールをダンスで使用している団体がトイレ内で着替えている様子をよく見かけ、一般利用者にとっても迷惑ではないかと考える。女性だからといって許されるものではなく、また、男女差もなくなっている時代であるため、パーティションで済ませるのではなく、更衣室を作るべきだと考える。

船津課長補佐） 当初の設計上の問題で、現実的に更衣室を作るのはなかなか難しいため、現実的には代替案を検討したい。もし更衣室が作れるとしたら、館内のどこに作れそうか、長年市民館にかかわっている委員の皆様から提案をお願いしたい。

山田委員） 指定管理者制度の導入を行うことは、市民館を運営する構成員が変わるということと同義か。

船津課長補佐） 詳細は後ほど説明するが、川崎市の職員に代わり、民間事業者が主体となって運営するスタイルになる。

山田委員） 施設の名称は変わるのか。

福田館長） 中原市民館という名称についての変更は予定されていない。

イ 社会教育振興事業について

資料3について説明（大久保係長）

船津課長補佐） 補足となるが、活動報告書の13ページには中原市民館の利用状況などが記載されているほか、対象年度の社会教育振興事業の成果も記載されているため、後ほど御確認いただきたい。

ウ 市民館の指定管理業務移行に係る手続き等の進捗状況について

資料4について説明（福田館長）

木村委員) 現時点で想定されている社会教育振興事業の進め方フローの真ん中にある区生涯学習支援部門のイメージはどのようなものか。

福田館長) 職員配置計画は未定であり、現時点では何とも言えない状況。

木村委員) 教育委員会事務局との関わり方はどうなるのか。

福田館長) 指定管理者との契約を進めているのは教育委員会事務局であるが、来年度以降に事業のモニタリングを行うのは区の役目となる。

木村委員) 区との調整に加えて、教育委員会事務局との調整もあると大変だと考え質問した。また、災害時の対応も憂慮しているが、どうなるのか。

福田館長) 中原市民館は帰宅困難者一時滞在施設であり、要配慮者優先施設に定められている。災害時の対応については仕様書に記載されている。

(2) 協議事項

ア 令和6・7年度の調査審議テーマについて

資料1の裏面の下部について説明(船津課長補佐)

五十嵐委員) 学校で教育プランについての話し合いをしたばかりであり、その際に感じたことは、多様性、生きがい、ウェルビーイング、自分の居場所づくりを重視する見方が増えたということだ。見通しの見えない社会で、主体的に地域と関わる力を子どもに身につけてほしい。市民館のテーマとしては、ウェルビーイングという言葉はどうか。

赤野委員) PTAも50周年でテーマをウェルビーイングとしている。五十嵐委員に賛成する。

山田委員) 昨年度のテーマは「ふらっと立ち寄ろう中原市民館」であったが、若い人はかわさき市民活動センターも中原市民館も知らず、市民館の知名度の低さを感じる。市民館を有効利用してもらうためには、まずは知ってもらう必要があると考える。

山本委員) ふれあいネットへの登録が個人単位となってから、サークル内で何人も予約をして当選確率を上げるなど、モラルが低下したように感じる。旧市民館時代は、2時間ごとに予約を取ることもできたが、ふれあいネットになってからは午前、午後等の時間帯の中で分割ができなくなった。結果として利用できる人がより制限されるようになった。「ふらっと立ち寄ろう中原市民館」の前に、システムの改良が最優先事項だと考える。

木村委員) 指定管理者制度へ移行すれば、利用時間の変更が可能という教育委員会事務局生涯学習推進課の発言があるが、果たして可能であるのか。

船津課長補佐) 指定管理者が提案できることになっている。

山本委員) 何年も問題になっている利用時間の調整ができなければ、利便性も向上せず、何をテーマにしたところで意味をなさない。

日吉副部会長) これまで中原市民館の知名度を向上させるために様々なことをしてきた。多くの利用者がいるが、年齢層が偏っているように感じる。通常、やりたいことの情報を調べる時、インターネットで検索順位の高いものを見る。中原市民館のホームページへアクセスすれば様々な情報が出てくるが、そこまで探す人は少ないと思われる。やりたいことの情報を調べた時、中原市民館で実施している事業の情報がすぐに目につくように広報ができれば、知名度の向上につながるのではないか。テーマとしては、イメージありきではなく、多様性が学べるなど、具体的に何ができるということを知ってもらうことが先ではないかと考える。

木村委員) どの意見も大事にしたい。現実として指定管理者制度の導入は確定事項であり、指定管理者を外して考えることは困難である。一緒に市民の学びを作っていけるように伴走したい。

川崎部会長) 時代の変化も加速している中、見てもらえる広報をどう行うのかは課題である。皆で知恵を出し合っていきたい。

イ その他

なし

1 1 その他

(1) 次回(第2回)専門部会の日程について

配布した資料に記載された候補日程で調整を図ったが決められなかったため、候補日程を追加した表を後日あらためてメールで送信するので回答に御協力をお願いしたい。

(2) その他

8月24日(土)の午後、中原市民館では「市民館EXPO2024」を「なかはらコアまつり」と同日開催する。昨年度は専門部会委員も協力しており、今年度もぜひご協力いただきたい。

1 2 閉会